

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西の家)

事業所番号	0670101476		
法人名	有限会社深町コーポレーション		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形市深町一丁目9番14号		
自己評価作成日	平成24年 8月 1日	開設年月日	平成15年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個性が強い傾向にあるが、いかに皆楽しく過ごしてもらうか日々考慮している。スタッフも考える事で良い刺激となっており、お互いに相乗効果が出ているようである。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3—31		
訪問調査日	平成 24年 8月 29日	評価結果決定日	平成 24年 9月 14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西の家・南の家を繋ぐ中庭に、はなみずきがシンボルの木として立ちそんな風情の中で、それぞれの居場所を確立し、毎日の暮らしを積み重ね、今よりも充実させたレクリエーションを取り入れ、職員も利用者の持てる力を発揮できるよう関わっています。出来ていた事が出来なくなった時、今までの馴染みの関係で利用者同士が許し合えるよう気持ちを繋げ、笑顔の花を咲かせることに支援を続ける事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年より理念が変更となったが、今の状況に合った内容となっており、事業所全体として共有し実践するようにしている。	利用者と職員で話し合い、決めた新理念2年目の生活では、職員の考えを出し合い刺激し合って、個性を引き出しながら実践にあたっている。個人の潜在能力を見つけ出して笑顔に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流を通して物々交換を行ったり、おすそ分けをちょうだいしたりしての地域との付き合いがある。	事業所主催の夏祭りには、昨年からボランティアの参加や、近所からの差し入れもあり、楽しいひと時を過ごしている。事業所としても、地域には開放的に接していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	困っているケースがあった際、相談にのったり必要時助言したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃行っている活動内容等を報告し「こうして欲しい」等要望を得ている。サービス向上につなげるよう努めている。	利用者をはじめ、家族等、深町・籠田両地区の民生委員、地区包括支援センター、法人代表者、職員2名、管理者と多くの人數で開かれ、事業所の取り組みの報告や利用者の様子等を理解してもらい、大事な助言者となっている。職員には会議時に口答で内容を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時市役所の担当者に電話したり、直接行ってわからない事を聞いたり相談したりしている。	介護相談員の来訪を受け、利用者の話し相手になってもらい、毎月楽しみにしている。困難事例の受け入れ等で、市職員と話し合うことも多く、理解してもらい、顔馴染みの関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	何が身体拘束となるのか常に意識してケアを行うようにしている。言葉での身体拘束も視野に入れて取り組んでいる。	言葉遣いには細心の注意を払い、不愉快にならない様に気をつけている。安全とリスクについて家族に伝えてあり、洋服の記名もその一つであると職員は認識している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	どういった事が虐待なのか、ミーティングで話し合いを持っている。虐待する事のないよう周知徹底している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を行った利用者がいたので、どのような人が、どのような手続きをとるのか勉強する機会があった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族・本人に十分な説明を行い同意を得るようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族より意見・要望があった際はミーティングでスタッフに伝達し、今後どうしていくか話し合い反映させるようにしている。また、報告するようにしている。	意見箱の設置は無いが、意見や要望は利用者、家族等から直接職員に伝えられ、記録に残し素早い対応をしている。請求書送付の際に、担当職員が利用者の暮らしぶりを手紙に書き同封し、家族との意思疎通に役立てる等、工夫しながらサービスに繋げている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事をスタッフに伝達し、意見を聞く機会を設けている。なるべくスタッフの意向に沿って反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフがやりがいを持って長く働けるような条件だったり、環境整備に努めてくれている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数が多いスタッフには介護福祉士や介護支援専門員の資格を目指して研修を受ける機会や勉強する機会を設けている。	月に一度開かれる会議時に、内外部研修受講の報告等を行って情報を共有している。職員の意欲的に物事に挑戦する姿勢がうかがえ、資格取得に向け日々研鑽を積んでいる様子が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会を通じて交換研修や研修会を設定している。参加し他事業所とのネットワーク作りや情報交換を行っている。	県グループホーム協議会に参加し、意見交換をして互いのスキルアップ向上に努めている。地域包括センター内の事業所間での交流もあり、広報活動を通し地域密着型サービスを利用者の暮らしに生かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々傾聴し、微妙な気持ちの変化も察知できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時電話等で情報交換を行い要望を聞くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族と相談しながら必要とするサービスの提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志を尊重をし、一方的なサービスではなく共に過ごす時間を多く持ち寄り添うケアを心がけている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況に配慮しながら協力を得ながら一緒に支える努力をしている。面会時等にはお互いに話し易い環境作りを行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出、ご家族、ご友人の面会、電話、手紙等自由に行っていただき、これまでの関係が途切れないよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の言動に注意し、関係性の把握に努めている。利用者間のトラブルもある現状なので、他事業所と連携しながらトラブル防止に繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状等を出したり、必要があれば連絡を取り合って相談を受けたり対応したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にご家族の意向や要望を聞いている。また、本人の日頃の言動を記録し、スタッフ間で共有し日頃の支援に繋げている。	関わりの中で、職員のペースではなく利用者の意向で生活を組み立てる事を大切にしている。事例検討会等も行い、思いを引き出せる支援を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中でその人の話を聞く事により、より理解するようにする。その他わからない事は必要に応じて家族からお伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人がその時の状態に応じてやりたい事、やれる事をできる限り利用者と共に行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位の精神で本人の意向、家族の意向をちょっとした事でも聞きだしている。それはどうしたらできるかポジティブな思考でプランニングするようにしている。	利用者の意向を一番に配慮したケアプランを作成している。家族等には面会時や電話で暮らしへの要望をうかがい、高い思いも共有しながら、今出来る事を続けられるように考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした事でも記録に残し、スタッフ同士で情報を共有し計画の見直しに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヨークベニマルを活用し、散歩しながら買い物している。また、店内を散策したり、ベンチに座って休憩したりと楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に通院若しくは往診を行い、主治医に状態の変化を報告している。また、ご家族様にも受診結果を知っていただけるよう、手紙や電話での報告をさせていただいている。	日頃より行き慣れたかかりつけ医へ通院している。年に1回は遠方にある家族等と一緒に付き添い利用者の健康を見守り情報を共有している。処方薬は一週間毎、看護師が配薬ケースに入れ管理し、誤飲を防ぐ工夫をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変動や内服薬の変更時は必ず伝わるよう口頭若しくは文面にて送っている。その上で受診の有無や処置の有無等の相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時家族から洗濯物の交換をお願いされた時、週1~2回訪問しその際病院関係者より身体の状態等情報を得ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内でできる事を説明し、ご本人や家族の要望や意向を踏まえた援助方針を話し合う。場合によっては訪問看護等の医療機関を活用し、体調変動の観察を行っている。	終末期ケアの相談を受け入れ、今後の要望に対応できるように職員も日々勉強に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に対応できるようAEDの使用方法等様々な応急措置の研修を定期的に行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を実施し、災害時の避難誘導の仕方を確認している。	2回のうち1回は火災想定のかき打ち訓練で召集し、利用者・職員共に防災への意識を新たに、見えてきた課題を生活の中に根付かせる努力をしている。有事の際には、地区からの協力を仰ぎ体制を整えている。	訓練を通して見えた新たな課題に向けて、次回に活かせるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者からの話題に耳を傾け、理解しやすいような言葉かけの工夫をしている。	孤立したり不愉快な思いをしない様に、隣接する小規模多機能型居宅介護と行き来し一人ひとりに配慮している。残存能力を生かし読み聞かせの先生を利用者をお願いしたり、その人らしさを引き出し日々の生活に潤いをもたらしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の要望を伺い、気分を損わないように日々の生活に接している。また、本人の思いがスタッフ間で共有できるよう記録を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要するのではなく、ご本人に選択していただき一人一人の健康状態や気分に合わせて満ち足りた生活ができるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを伺いながら、化粧品や洋服ファッション等の身だしなみの支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の惣菜の盛り付けや食器拭きに自ら嫌な顔せず参加していただき、利用者同士が協力し合い手伝って下さる。手作りおやつや外食等、食の楽しみとなるよう支援している。	食べたい物を利用者との会話から聞き出し、メニューに取り入れている。外食などへ出かけるのが難しい時は、手作りの菓子やお茶等で気分転換をし一緒に楽しんでいる。また、調理台や床等ハイターで消毒し、食中毒予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者によって食材を細かく刻んだり、介助したりしている。体調に合わせて、お茶や冷たい飲み物等勧めて飲んでいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎等起きないように口腔ケアには努めるようにしている。その人の状態に合わせて緑茶を用いたりしているケースもある。全員ブラッシングは必ず行うように心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はリハビリを兼ねてなるべくトイレへ誘導し排泄介助を行っている。失禁の軽減を図れるよう自立支援を踏まえ対応するようにしている。	日中はトイレの使用を目標にチェック表を活用し、排泄習慣を把握している。利用者によっては、夜間時個別に合ったオムツを提供し、不快の無いよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜やヨーグルトを毎日の献立に取り入れたり、天気の良い時は散歩に行ったり掃除をお手伝いしていただき体を動かすよう勧めている。また、個別で下剤調整している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を伺い、一緒に衣類・パジャマの準備をしたりしている。入浴がない日は足浴等勧めている。シャワー浴も希望に合わせている。	好きな時間帯を選び、自分好みの入浴をしている。個浴の困難な方には、小規模多機能型居宅介護にある機械浴を使用し、リラックスしてもらえる空間を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドに入る前には排泄を終わらせる等、本人の体調に合わせて部屋の温度調整や換気を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人薬の説明書をもらってくるので、それをファイリングし全員がわかるように管理している。配薬時も照らし合わせながら行っており間違いのないように対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を唄ったり、軽体操を行う機会が多い。長年主婦として過ごされた方なので、日常的な家事等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気と相談しながらリクエストを問い、なるべく意向に沿うようにしている。季節柄出かける場所も異なり楽しんでいただくようにしている。個別に家族の意見も取り入れながら、自宅周辺や思い出の場所にも行っている。	日常の生活用品の買い物や月に数回の遠出など外に出る機会を多く設けている。時には家族等の協力を得て作ったむゲームを楽しみ、有意義に過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人の利用者だけが自分でお金の管理をしている。職員と一緒に買い物にでかけ、必要な物を自由に買い自分で精算している。その他の利用者は家族がお金の管理をしており、買い物に行っても職員が精算する形になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して自由にしているケースもあれば、事業所の電話を活用して自宅にいた時と同様に行っているケースもある。定期的に手紙や絵手紙を書いて送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから中庭が見え、木々や花々に囲まれた生活をしている。施設内はみんなで作った折り紙やぬりえで飾り付けをしたり、季節の花を生けたりして季節感を出す工夫をしている。	民家を改築した居心地の良い空間で一人で休みたい時には、和室や、ソファで思い思いの時間を過ごしている。絵手紙の講師を招き、正月や暑中見舞いのハガキを出し家族等からも喜びの声が聞かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各室でリラックスして過ごしたり、気の合う人と一緒に談笑したりできるようにしている。レクリエーションやお茶の時間には声がけをして、気分が乗らない時は無理に誘わず一人一人の思いを尊重し時間をずらす等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自使い慣れたタンスや思い出の写真等を飾り、本人が居心地の良い空間作りを家族にもお願いしている。	馴染みの物に囲まれた温かみのある部屋で利用者と一緒にリネン交換や掃除の手伝いをし、愛着のもてる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共用空間は常に目配りをして、安全で快適な生活ができるようにしている。			